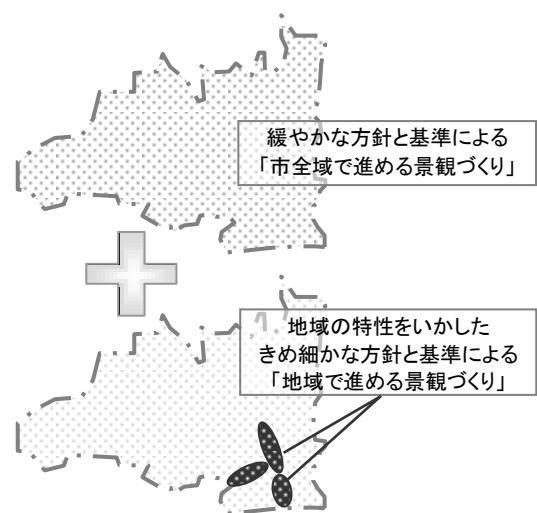


第5章 地域で進める景観づくり

市内の各地域は、四季折々の多彩な魅力と個性のある景観に恵まれています。こうした身近な景観の良さを日々の暮らしの中で大切にはぐくんでいくために、「市全域で進める景観づくり」とともに、地域の特性をいかした独自の取組みによる「地域で進める景観づくり」を進めます。



1. 景観重点区域の景観づくり

湘南ひらつか都市景観づくり要綱では、優れた都市景観形成を図るべき地区として、まちなみ景観形成モデル地区（以下「モデル地区」という。）を3地区指定してきました。このモデル地区においては、建築行為等が行われる際に、届出制度により、景観に関するきめ細かな協議・誘導を行っています。また、地元の住民が主体となった協議会が組織され、様々な景観まちづくり活動が展開されている地区もあります。

このような地域の取組みの継続が重要であることから、景観計画では、モデル地区を景観づくりを重点的に進める区域（以下「景観重点区域」という。）として改めて位置づけ、市全域を対象とした景観づくりの基本方針に加えて、地域の特性に応じた景観づくりの基本方針を定め、景観法及び景観条例に基づく届出制度によって、引き続き景観づくりを進めます。

景観重点区域では、景観づくりの担い手となる住民主体の組織づくりを促進するため、地域住民に対する景観づくりの普及啓発を進めます。また、公共事業における計画段階からの参画や、住民と行政の協働によるアクションプランの実践などを通して、住民と行政が協力して景観づくりを進めながら、地域独自の法定景観計画の策定や景観協定の締結など、地域にふさわしい景観づくりの方法を検討します。

□景観重点区域の概況

景観重点区域	区域の概況
海へのシンボル軸	松の緑が豊かな、湘南の趣を感じる、平塚駅南口から海岸に至るなぎさプロムナード沿いの区域。
都市のシンボル軸	本市の顔としての魅力や活力を印象づける、平塚駅北口から、市役所などの行政機関や文化施設などの集積した地区を経て、市総合公園に至る区域。
歴史軸	高麗山への眺めが特徴的で、多くの社寺や史跡も点在する、かつて宿場町のあった旧東海道沿いの区域。自治会や商店会など区域内の住民が主体となった「平塚宿まちなみ景観協議会」が組織され、様々な景観まちづくり活動が展開されている。

② 都市のシンボル軸

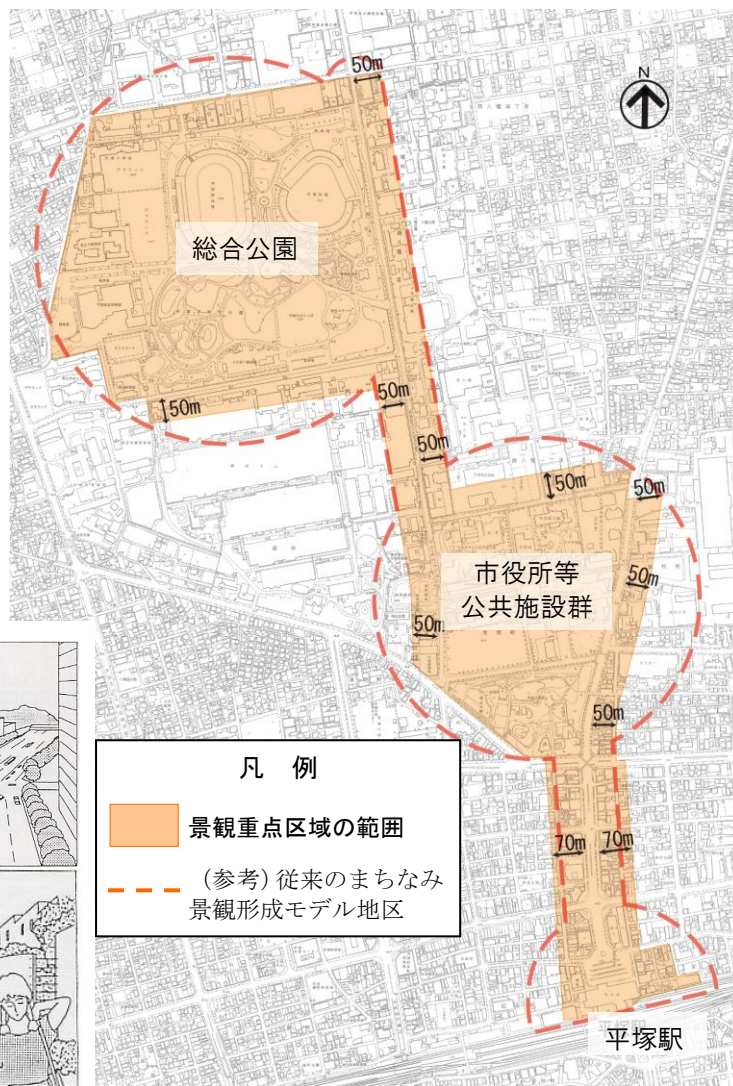
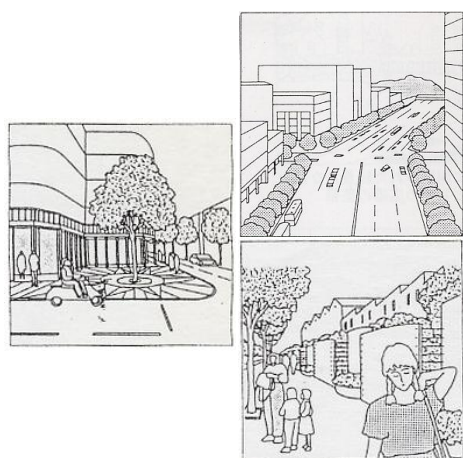
○基本方針 都市の顔となるシンボル軸の形成と、公共施設におけるシンボル性の創出を図るとともに、緑豊かなまちなみの形成をめざします。



○平塚市総合公園



○駅前大通りと平塚八幡宮の杜



○景観づくりの方向性

- ・建築物や広告物などは、連続性や統一性の図られた、市の玄関口にふさわしいデザインを誘導し、オープンスペースの確保やサインなどの整備による公共空間の充実を進め、快適で機能的なシンボル軸の形成をめざします。
- ・由緒ある参道の歴史をいかし、特色あるイベントの開催や個性ある店舗づくりの促進、公共空間の充実を進め、にぎわいと活気にあふれた回遊性のあるみちすじの形成をめざします。
- ・平塚八幡宮、文化公園、総合公園などのまとまりある緑地を保全するとともに、沿道緑化の促進や歩行空間における街路樹やポケットパークの充実により、都市のシンボル軸の緑のネットワークの形成をめざします。